

2012年1月26日／浪宏友ビジネス縁起観塾

## 自分が変われば世界が変わる

資料：庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』（佼成出版社）「方便品－1」

### 1. 方便品の構成

- (1) 釈迦牟尼世尊が瞑想を終えて、教えを説き始めますが、途中で止めてしまいます。説法を止める間に十如是を説きます。
- (2) 舍利弗が熱心にお願ひした（三止三請）ので、釈迦牟尼世尊が再び教えを説き始めます。
- (3) 釈迦牟尼世尊は、諸仏が世に出る目的（一大事の因縁）について語ります。

### 2. 諸法実相

#### (1) 諸法実相

諸法とはこの世のすべてのものごと、実相とはものごとのありのままのすがたという意味です。ですから、諸法実相とは、ものごとのありのままのすがた、真実のすがたという意味になります。

#### (2) 十如是

経文に「所謂諸法の如是相・如是性・如是体・如是力・如是作・如是因・如是縁・如是果・如是報・如是本末究竟等」とあり、「如是」が十回出てくるので「十如是」と呼ばれています。

十如是は、諸法実相を解明するための、現象世界の見かたを表した理論です。

### 3. われわれの世界

#### (1) 現象世界

① われわれの世界や存在はすべて現象世界の中だけであって、われわれが感覚や知覚によって認識し判断できるものも、すべて現象世界だけである。（水野弘元著『仏教の基礎知識』春秋社、27頁）

② われわれが問題とすべきことは、われわれがその中に生活し、日常経験することのできる現象世界だけである。現象世界こそがわれわれにとっての世界であり、存在のすべてである。

（同書31頁）

#### (2) 自分の事実

① ビジネス縁起観では、自分の感覚・知覚を通して認識した事実を「自分の事実」と呼びます。

② 人はそれぞれに自分の事実を作ります。自分の中にできた「自分の事実」と、他の人の中にできた「他の人の事実」は異なります。

③ 自分が取り組めるのは、自分の中にできた「自分の事実」だけです。

④ 「自分の事実」と「実際的事実」は異なります。私たちには、「自分の事実」を「実際的事実」に近づける努力が求められます。

#### 4. 「如是」の意味

- (1) 「如是」には「このように」という意味があります。

ものごとは、われわれが感覚や知覚で認識したようにあるということです。

- (2) 「如是」には「ありのまま」という意味があります。

われわれが感覚や知覚で認識したことを、何の加工もせずに受け取ることができれば、それが「ありのまま」に認識したということです。「ありのまま」に受け取って、「ありのまま」に思考し判断することが望まれます。

- (3) われわれが感覚や知覚で認識したものごとを、自分の中で変形して受け取れば、ありのままではなくなります。このためにものごとを見誤り、思考や判断を誤ることになります。

- (4) 「ありのまま」に受け取ることができなくなる要因として、次のようなものが考えられます。

智慧が浅い。知識が浅い。経験が浅い。先入観や固定観念が働く。連想や推測が働く。

自分本位が働く。自己防衛本能が働く。感情が先走る。感情が高ぶる。高慢や劣等感が働く。

ものごとを否定的に受け取る癖がある。生活態度・人生態度が歪んでいる。悪意が働く。

ひねくれている。悲観的または楽観的に過ぎる。そのほかさまさまな煩惱・随煩惱が働く。

#### 5. 本末究竟等の意味

- (1) 「本末究竟等」とは「あらゆるものごとを深く観察し、とことんまで究めていくと、あらゆるものごとを貫く共通なことがらが見出される」ということです。

- (2) あらゆるものごとは、必ず変化するという共通点があります。

- (3) あらゆるものごとは、必ず他のものごとと関わり合い、互いに生かされ合い生かし合いの関係にあるという共通点があります。

- (4) あらゆるものごとは「原因・条件・結果・影響の原理」で動いているという共通点があります。

#### 6. 「相・性・体・力」について

- (1) 「体（現象上の本体）」は、「相（すがた形）」を持ち、「性（性質）」を持ち、「力（潜在能力）」を持ちます。

- (2) 「相（すがた形）」は、おおむね、感覚の対象となるものと考えてよいと思います。

道具を使って感覚を拡大することができます。道具には、望遠鏡、顕微鏡、拡声装置、レーザー、さまざまな測定器などがあります。

- (3) 「性（性質）」は、さまざまな条件に対して、ほぼ定まった反応を示す傾向があることです。

数多くの条件に対して、ほぼ定まった反応を示すものもあれば、一定の条件に対して定まった反応を示す場合もあります。

- (4) 「力（潜在能力）」は、「体（現象上の本体）」が持っている能力のことです。

## 7. 「作」について

- (1) 「作」は、はたらきのことです。「力（潜在能力）」が、「縁（条件）」に応じてさまざまなはたらきをあらわします。
- (2) 「力（潜在能力）」がなければ「作」はあらわれません。
- (3) 「力（潜在能力）」があっても、「縁（条件）」がなければ「作」はあらわれません。

## 8. 「因・縁・果・報」について

- (1) ビジネス縁起観の「原因・条件・結果・影響の原理」です。
- (2) 人と人との関係では、一方の人の「相・性・体・力・作」が「因（原因）」となり、他の人の「相・性・体・力・作」が「縁（条件）」となって、「因・縁・果・報」が展開します。

## 9. 一念三千

### (1) 一念三千の理論

- ① 十界（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上・声聞・縁覚・菩薩・仏）の各々が、十界を具えています。すなわち、どの世界にいても、すべての世界に行く可能性があります。これを、十界互具と言います。十界がそれぞれ十界を具えているので、掛け算をすれば百界になります。

$$\text{十界} \times \text{十界} = \text{百界}$$

- ② 仏陀も地獄などの因子を持っています。しかし、仏陀は、智慧のはたらきによって、これらの因子がはたらきだす条件を与えません。
- ③ 百界のそれぞれに十如是がはたらきます。掛け算をすれば千の如是になります。これを百界千如と言います。

$$\text{百界} \times \text{十如是} = \text{千如}$$

- ③ 人は三世間（五陰世間・衆生世間・国土世間）の中で生きています。千の如是が三世間に広がります。掛け算をすれば三千世界になります。

$$\text{千如} \times \text{三世間} = \text{三千世界}$$

- ④ 私たちが十界のどこかにいて一念を発しますと、それはたちまち三千世界に広がります。これを一念三千と言います。

### (2) 一念三千とは

- ① 一念というのは自分の心、三千というのはありとあらゆる世界です。  
自分の心のもち方（一念）が、ありとあらゆる世界（三千世界）に行き渡る。一念三千の理論はそのように言っています。
- ② 一念三千の理論は、自分の心の持ちかた一つで、世界が変わることを示していると言えます。

## 1 0．自分が変われば世界が変わる

自分が変われば世界が変わるとは、現実的には二通りの変わりかたがあります。

### (1) 自分だけが変わる

自分が変わると、世界そのものは変わらなくても、世界と自分の関係が変わります。

これによって、自分の生き方が変わります。

### (2) 世界も変わる

自分が変わると、その影響で、世界そのものに変化が生じます。

自分の身の回りという狭い世界なら、現実には自分が変わると現実には世界が変わることを経験するのは、さして難しくないでしょう。

### (3) 自分が変わるのが先

いずれにしても、自分が変わるのが先で、それに応じて、世界が変わるのです。

世界そのものが変わるか変わらないかはともかく、自分が成長することがもっとも重要なことです。自分が成長することによって、世界そのものが変わる可能性も大きくなっていきます。

## 1 1．自分を変える

### (1) 自分は変化する

自分は、経験を通して変化します。

とりわけ、自分の意志で判断し行動したときの自分の変化が、もっとも重要な変化です。

### (2) 意図的な成長

「自分の原因を正しくする」ことと、「触れ合う条件を正しく選ぶ」ことで、自分を意図的に成長させることができます。

### (3) なりたい自分

「こういう自分になりたい」と思うならば、そのための原因を自分の中に作り、そのための条件を求めて、努力すればいいのです。

### (4) 価値ある生き方

① 私たちは、自分の存在価値が、昨日よりも今日のほうが大きいように、今日よりも明日のほうが大きくなるように、自分自身を上に向かって変えていきたいと思えます。

② 私たちは、常時達成形の人生の成功5条件を揃え、そのひとつひとつの中身をより充実させることのできる自分になりたいと思えます。

註：常時達成形の人生の成功5条件＝人々への貢献、日々の充足、信頼の人間関係、安らかな家族、成長する自分